

演劇



学校
教育



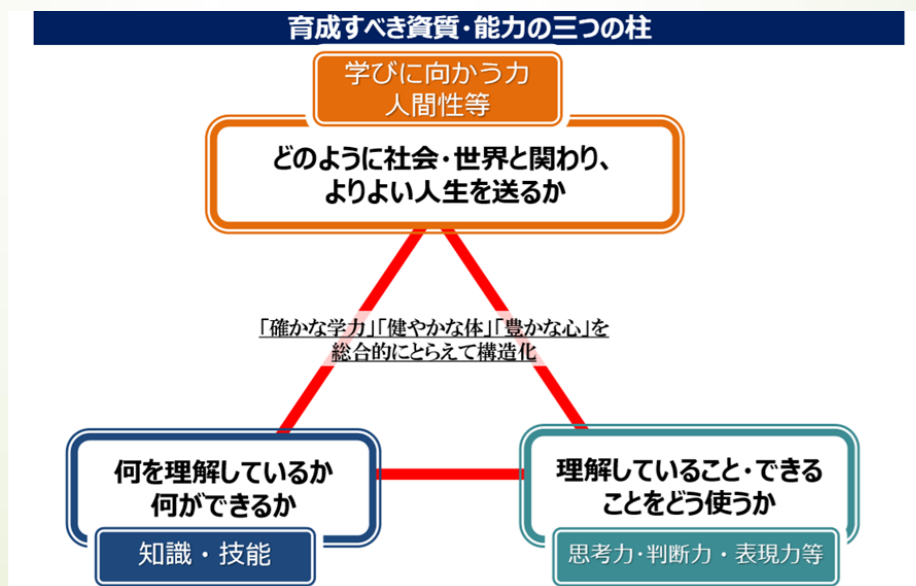
令和元年度 課題解決型ワークショップ

演劇×学校教育

アンチ大魔王とことばバトル！

学校教育において想定される課題

- ・相手の立場に立って行動できない
- ・自己肯定感の向上
- ・コミュニケーション能力の向上
- ・非認知能力の向上



ワークショップ概要

何もかもが嫌いだというアンチ大魔王に対し、自分たちの好きなものの魅力や想いを伝えることで、大魔王に自分たちの好きなものを好きになってもらう。自分とは異なる他者を認め、わかりあおうとすること、わかりあえるようになることが目的です。

また、友だち同士だけで通じる「内のことば」だけではなく、他者のことを慮った「外のことば」があることを知り、その違いを知り、他者に伝えるということを知っていきます。

講師

わたなべ なおこ 氏 (ワークショップファシリテーター、演出家)
河野 悟 氏 (ワークショップファシリテーター、俳優)

対象者

城西小学校5年1組～3組、6年1組～3組

実施日

2019年9月18日～19日 (計6回実施、90分/回)

ワークショップ内容

- ・チーム（5, 6人）に分かれ、各チームに「好きな学校行事」「好きな給食」等のお題が出され、チーム全員が共通する好きなものを話し合い、ひとつに決める。
- ・一人一人が好きな理由を考え、チーム内で共有。自分と他の人の理由の違いを知り、好きなものの魅力を全員で整理し、「なぜならカード」を作る。
- ・「なぜならカード」を使い、大魔王とバトル。なんでも嫌いと言う大魔王が好きになってくれたら勝ち！



ワークショップ参加者の声

【児童の声】

- ・ **自分がなぜそれが好きなのか、改めて考えられました。**この先、**自分と意見が違う人や自信のない人には、「一緒に頑張ろう」と声をかけて、みんなと仲良くなって、自分の心も相手の心もポカポカになって良い世の中にしたいです。**
- ・ 自分の意見だけ言うのではなくて、**相手の気持ちを考えることを大切にして**これからは心がけようと思いました。
- ・ **1つの言葉でも、人によっては捉え方が違うし、感じ方も違う**ということがとても勉強になりました。

【先生の声】

- ・ 「この子、こんなに言うんだ...」、「なるほど」と思う、びっくりすることが私にとってうれしいことでした。
- ・ 魔王の切り返しにとまどう子どもの姿がとても印象的だった。きれいな言葉ではなかなか伝わらないその“思い”の強さが表れ始めるグループもいくつか見られた。

【ロジックモデル】

